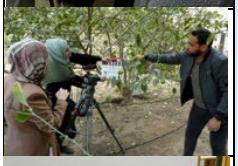
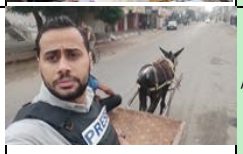
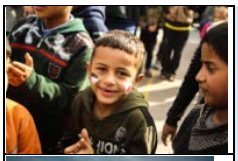
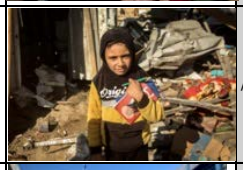
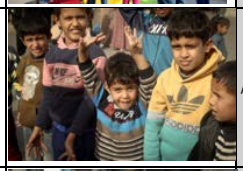
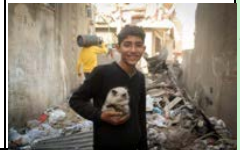
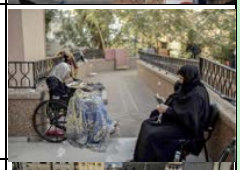
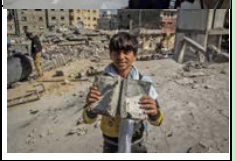
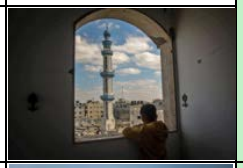
番号		印刷サイズ	撮影詳細	キャプション
入１		A1	撮影日：2015年7月30日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：後藤明子	「いつか僕が、ガザの現実を世界に伝える」 ジャーナリストになりたいと語り、一眼レフを構えたモハマッド。そのまなざしの強さに心を打たれ、迷わずシャッターを切った一枚。今はもう会えない彼の夢と希望が、この一枚に刻まれている。
入２		A2	撮影日：2011年7月30日 撮影場所：ガザ市、ガザ地区 撮影者：後藤明子	束の間の自由を感じた瞬間（とき）。ガザでは、海が数少ない“自由を感じられた場所”。閉ざされた日常の向こうに、ひらけた海があった。サマーキャンプで訪れたこの日、モハマッドが満面の笑みで、こちらに手を振ってくれた。
Ｉａ		A2	撮影日：2009年8月3日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：石橋優子	モハマッド13歳 2008年末から2009年初めにかけて、ガザ地区は連日空爆に見舞われた。心のケアの活動に参加していたモハマッド少年の強い意志に惹かれた。
Ｉｂ		A2	撮影日：2010年6月21日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：後藤明子	モハマッド14歳 最初の出会いから約１年後、心のケアの活動で描いた夢や希望の絵。この時は、あたたかく前向きな思いを感じられるような、やさしい色合いの絵を描いた。
Ｉｃ		2枚を一つにまとめてA3	撮影日：2009年8月4日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：桑山紀彦	Ic（上）「忘れられないあの日」 「色は自由の象徴。空爆され、占領されている自分たちの街に色はない」とモハマッドは言った。 Ic（下）「夢や希望」 「いつか日本に行きたい。戦争から立ち上がった日本をこの目で見てみたい」と、街に色をつけた。
Ｉｃ			撮影日：2010年7月29日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：桑山紀彦	
Ｉｄ		A4	撮影日：2011年7月28日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：後藤明子	モハマッド15歳 心のケアのクラスに継続して参加した。年齢が上がり、クラスの中ではリーダー的存在。
Ｉｅ		A2	撮影日：2012年6月23日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：後藤明子	モハマッド16歳 少しずつ心の中を共有し、友達やスタッフ、日本人と関わる中で、初対面のときの鋭さは薄れ、やわらかい表情を見せるようになってきた。
Ｉｆ		A2	撮影日：2014年9月17日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：桑山紀彦	モハマッド18歳 大学生になり、初めてのパスポートを手に。日本に行くことを願っていたが、この時は行けず。日本に行くことが彼の夢の一つだった。
Ｉｇ		A2	撮影日：2015年6月27日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：後藤明子	モハマッド19歳 心のケアプログラムのひとつ、映画撮影ワークショップにスタッフとして参加。役者として演じる傍ら、出演する子どもたちには厳しい演技指導を。
Ｉｈ		A2	撮影日：2017年9月13日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：石橋優子	モハマッド20歳 マルチメディア科でジャーナリズムの勉強に励む。その躍動感あふれる写真には驚かされた。
Ｉｉ		A4	撮影日：2023年11月10日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	モハマッドは、学生の頃から職人や労働者を好んで撮影していた。戦争が始まった後も、彼はライフワークの一つとして、ガザの職人の写真を撮影しつづけていた。

I j		A2	撮影日：2020年2月20日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohammed Farhat	モハマッド23歳 大学卒業後、地球のステージのガザスタッフになり、広報や心理社会的支援（PSS）の活動の一つである映画撮影ワークショップなどで力を発揮。
I k	  	4枚を一つにまとめてA２とする	撮影日：2022年12月13日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：石橋優子	モハマッド26歳 映画撮影ワークショップでは、モハマッドは機材や撮影手法の指導から、演技指導や編集までを担う。彼が制作した映画「Live」は、写真同様困難な中で生きる人々の強さを捉えた作品となっている。
I l		A3	撮影日：2023年3月7日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：中村順子	モハマッド26歳 モハマッドの自宅で妹のアッラーと共に、彼が大切にしている私たちとの写真を見ながら、楽しい思い出を語りあった。この時が、私たちがモハマッドに会った最後となった。この７ヶ月後、ガザ戦争が始まった。
I m		A3	撮影日：2023年11月13日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	モハマッド26歳 ガザ戦争が始まった直後から、彼はPressと書かれた防弾チョッキに身につけ、ガザ各地での取材を開始した。すでにガソリンなどの入手が難しくなっていたため、移動はロバで行っていた。
I n		A3	撮影日：2024年5月17日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	モハマッド27歳 ガザのジャーナリストたちとの連携。ガザジャーナリスト連盟の写真は、誰もが世界に発信できるよう著作権フリーである。モハマッドは、仲間から共有された写真も私たちに送ることで、ガザの惨状を世界に広く発信しつづけた。
I o		A3	撮影日：2024年5月17日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	モハマッド27歳 2024年5月17日、モハマッドは生まれ育ったラファからハンユニスに退避した。絶望の中、それでも「ガザの人々の声を届けることにしか希望はない」と考え、この日以降も取材を続けた。
I p		A3	撮影日：2025年1月21日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Nour Imad **協力：朝日新聞**	モハマッド28歳 モハマッドはジャーナリストであるが、地球のステージのガザスタッフでもある。脆弱者への食糧物資支援を実施。この頃は一時停戦後で物資配布ができたが、現在物資はほぼ入手できず、ガザは飢饉の重大なリスクに直面している。

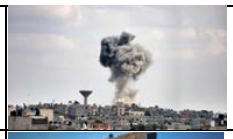
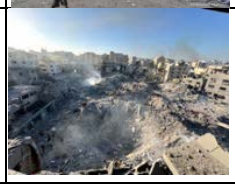
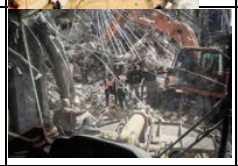
I 3		4枚を一つにまとめて	撮影日：2023年11月25日 撮影場所：ラファ, ガザ地区 協力：朝日新聞	戦争下や過酷な状況で、モハマッドが見つけ色彩。いずれもガザの人々の優しさや強さを感じることができる。
			撮影日：2023年11月25日 撮影場所：ラファ, ガザ地区 協力：朝日新聞	

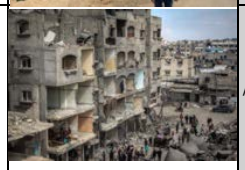
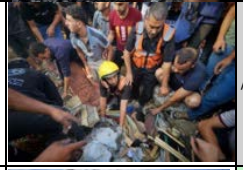
入3	 	A２とする	撮影日：2024年1月8日 撮影場所：ラファ, ガザ地区 撮影日：2025年1月19日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 協力：朝日新聞	ガザを愛したモハマッドの代表作。
II①a		A4	撮影日：2023年10月15日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	ガザ地区には上下水道はなく、建物の上に貯水タンクを設置して各家庭で使用している。戦争開始直後、水の搬入がストップしたため、給水場が唯一の水場となった。
II①b		A4	撮影日：2023年10月29日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	戦争開始直後、平和を願うピースサインがあちらこちらで交わされた。
II①c		A4	撮影日：2023年10月29日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	生活用水を運ぶ少年。子どもたちの水汲みが日常の光景となった。
II①d		A4	撮影日：2023年11月4日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	「食糧探し」に活躍するのは子どもたち。子どもたちは連携し、食糧がある場所の情報交換しながら食糧を確保していく。
II①e		A4	撮影日：2023年11月25日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	燃料がないため廃材を薪にし、煮炊きする。2023年11月24日からの戦闘一時休戦時、街に活気が戻った。
II①f		A4	撮影日：2023年11月28日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	一時休戦時は戦闘再開に備えて、皆食糧確保に奔走する。ここでも子どもたちが大活躍！
II①g		A4	撮影日：2023年11月30日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	スマホ充電の見張り番。電気が使える時間はスマホの充電が殺到する。ガザでもスマホはライフラインの一つ。
II①h		A4	撮影日：2023年12月2日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	戦争が始まり、電気がほとんど使えなくなった。仕立屋のアエド・サルハさんは自転車の車輪で動くミシンに改造。アエドさんの息子ムハンマド君は、自転車こぎのお手伝いでお父さんと話す時間が増えたと喜んでいる。（朝日新聞デジタル、2023年12月6日記事より）
II①i		A4	撮影日：2023年11月25日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	一時休戦時には街に笑顔が戻る。誰もが日常の生活を過ごしたい。ケバブ屋の少年も満面の笑みでケバブを差し出した。
II①j		A4	撮影日：2024年4月28日 撮影場所：ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	手にパンを持ち、空を見上げる子の目には青空が広がっていた。

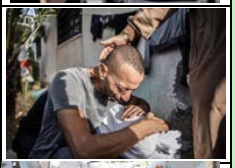
Ⅱ②a		A4	撮影日：2025年3月6日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「学校が再開すると聞いた時は、期待で胸が膨らんだ。でも校庭から聞こえる歓声、楽しいおしゃべり、椅子に座っていた環境、全てが今はもう存在しないことを思い知らされた」（アスマ・アブスルタンさん17歳）（朝日新聞デジタル、2025年3月2日記事より）
Ⅱ②b		A4	撮影日：2024年3月6日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	きれいに仕上げた塗り絵と一緒に、スマイル！
Ⅱ②c		A4	撮影日：2025年3月6日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	瓦礫からノートと鉛筆を見つけ出した少年。戦争は子どもの学びすら奪っていく。
Ⅱ③a		A4	撮影日：2025年2月20日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	避難所でPFA（心理的応急処置）を実施。子どもたちの笑顔がまぶしい。PFAでは、安心できる場所を提供し、楽しさを感じる活動を通して、生きる希望を見出していく。
Ⅱ③b		A4	撮影日：2023年12月11日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	戦争開始後の2023年12月10日から、以前心のケアの活動を一緒に行っていた現地スタッフと共に再開した。子どもたちは一時笑顔を取り戻した。
Ⅱ③c		A4	撮影日：2023年12月11日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	連日、200名近い子どもたちが活動に参加。周囲には父母が小さい子どもたちを見守り、避難所全体に笑顔が見られるようになっていった。
Ⅱ③d		A4	撮影日：2023年11月25日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	仲良し三人組。日本だって、ガザだって、イスラエルだって、子どもの世界はどこも同じなはず。
Ⅱ③e		A4	撮影日：2024年3月6日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	子どもたちはいつも今を生きている。楽しい時間は全力で楽しむだけ。この時間が子どもたちの希望につながりますように。
Ⅱ③f		A4	撮影日：2024年2月14日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	これまで暮らしていた家の自慢話をしながら、みんなで1枚の紙にカラフルな絵の具で家や花を描く。戦争前、パレスチナの家の庭は色とりどりの花や植物で満たされていた。
Ⅱ④a		4枚を一つにまとめてA3	撮影日：2023年10月22日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	戦禍でも小さな命を守り、愛でるガザの人々。 右下の写真（Ⅱ④d）で、空の鳥籠をもつ姉妹は飼っていた小鳥を逃し、ハンユニスへと避難していった。
Ⅱ④b			撮影日：2023年10月22日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ④c			撮影日：2023年10月25日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	

Ⅱ④d			撮影日：2024年5月15日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	
Ⅱ⑤a		4枚を一つにまとめてA3	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	ガザ地区住民のほとんどがイスラム教徒で、イスラムの教えが心の拠り所。 左下の写真（Ⅱ⑤c）の少年は瓦礫からコーランを見つけ、満面の笑みになった。
Ⅱ⑤b			撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑤c			撮影日：2024年11月23日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者： Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑤d			撮影日：2024年11月23日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑥a		4枚を一つにまとめてA3	撮影日：2025年3月6日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「人々は希望を持って生きていけなくなった。私もその一人だ。」（モハマッド・マンスール）（朝日新聞デジタル、2024年4月6日記事より）
Ⅱ⑥b			撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑥c			撮影日：2024年11月23日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑥d			撮影日：2023年12月6日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅱ⑦a		A4	撮影日：2023年12月1日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	パレスチナ国旗を描く。ガザで生まれ、パレスチナがこの子の祖国。
Ⅱ⑦b		A4		
Ⅱ⑦c		A4	撮影日：2024年1月8日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	パレスチナ国旗のフェイスペイントをする子どもたち。パレスチナを大切に想う気持ちをこめて。

Ⅱ⑦d		A4		

Ⅲ①a		A4	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	遠くに着弾した。爆炎の大きさに、破壊の威力や大きさを知った。
Ⅲ①b		A4	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	大地が深くえぐられた着弾跡。多くの人が救出作業を見守る。
Ⅲ①c		A4	撮影日：2023年10月29日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	レンガとセメントで作られる建物。攻撃で空洞化し、骨組みだけが残されている。ガザでは家族が増えると上層階に建て増しする。建物から伸びる鉄筋は未来への希望だった。
Ⅲ①d		A4	撮影日：2023年12月3日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	そこが何だったかがわからないほど、建物は粉微塵の瓦礫になった。そんな場所がどんどん増えていき、今ではガザ全域が瓦礫で埋め尽くされている。
Ⅲ①e		A4	撮影日：2023年12月7日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「今度もテント暮らしなのか。いつか自分の家を取り返して生活を始められるのか」（モハマッド・マンスール）
Ⅲ①f		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「夜が明けたらまたどこかが壊れているだろうから、片付けにいかないといけないな。」ラファでは、そんな言葉を頭に浮かべながら、爆発音を聞いている人が多い。（朝日新聞デジタル、2024年2月18日記事より）
Ⅲ①g		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「これまで不安と緊張、疲労の中で生きてきた。飢えに苦しみ、たくさんの死を目の当たりにし、今日我が子を失った。これ以上、イスラエルは何を望むんだ？」（ムハンマド・アルアサムナさんの言葉、朝日新聞デジタル、2024年4月6日記事より）
Ⅲ①h		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour 協力：朝日新聞	かろうじて残った建物で人々は暮らす。子どもたちはそんな場所で遊ぶ。
Ⅲ①i		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	ラファでは空爆で破壊された建物と、あふれかえる人々の光景が日常になった。ガザ地区の南部のラファには、北部から多くの人々が避難している。
Ⅲ①j		A4	撮影日：2024年3月9日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	街中いたる所が破壊された。それでもガザを出ることはできない。ガザにいて、ガザで生きるだけ

III①k		A4	撮影日：2024年5月17日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	美しいガザの海岸線は、家を破壊された人々のテントで埋めつくされている。
III①l		A4	撮影日：2024年11月23日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「ラファには、もう家なんてない。何とか探し出した破壊を免れている場所で暮らすだけ。」（モハマッド・マンスール）
III②a		A4	撮影日：2023年12月1日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	2023年12月1日、戦闘が再開された。イスラエルが南部中心都市のハンユニスまで空爆範囲を広げたため、エジプトとの境界に近いラファでは避難民がさらに増えた。
III②b		A4	撮影日：2023年12月1日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	運よく荷馬車を使うことができても、身の回りのものしか持ち出せない。家族の宝物は家に残したままだろう。
III② c		A4	撮影日：2024年11月23日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	戦争が始まって1年以上経つ頃には、もうガソリンなんて手に入らない。痩せたロバに家財を積み避難する。車では通れないような悪路もロバは黙々と進んでくれる。
III②d		A4	撮影日：2023年12月1日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	現状を嘆きながら避難する女性。戦争が始まって、ラファの人口は何倍にも膨れ上がった。2023年12月頃になると、ラファでも日中に爆撃音が頻繁に聞かれるようになった。
III③a		A4	撮影日：2023年10月21日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「子どもたちは、ハマスなんて知らなかった。もちろん、何の関係もなかった。」（7歳の息子を空爆で亡くしたアマル・アルハワジャさんの言葉より、朝日新聞デジタル、2023年11月11日記事）。至る所で子どもたちが被害を受けている。
III③b		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「ハマスが支配する地域に生まれたことが罪なのか。考えても答えは見つからない。」（モハマッド・マンスール）
III③c		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	「あまりにも早い速度で親戚や友人が亡くなり、もう悲しむこが難しくなっている。」（モハマッド・マンスール）
III③d		A4	撮影日：2024年3月5日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	少女の空虚な瞳が、凄惨な戦争を物語る。
III③e		A4	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	破壊された建物から幼い子どもを救出する。
III④a			撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ガザ市、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	

Ⅲ④b		4枚を一つにまとめてA3	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ガザ市、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	誰もが、家族、親戚、友人など、大切な誰かを失い深い悲しみにくれる。
Ⅲ④c			撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ガザ市、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅲ④d			撮影日：2023年10月11日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	
Ⅲ⑤a		A4	撮影日：2023年12月1日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	パンを手にし、このやるせない気持ちと戦争への怒りを声にする女性。
Ⅲ⑤b		2枚まとめてA4	撮影日：2024年5月17日 撮影場所：ハンユニス、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	障がいのある女性の水汲みは大変な仕事
Ⅲ⑤b			撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	病院のベッドは重症者でいっぱいになり、軽傷者は廊下で眠る
Ⅲ⑤c		A4	撮影日：2023年11月6日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	病院には次々を負傷者が運び込まれてくる。この病院も建物の外にベッドや機材を置き、負傷者の手当てを行っている。
Ⅲ⑤d		A4	撮影日：2023年12月6日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	ガザでは、夫を亡くした女性は喪にふくす間は顔を隠す。ガザでは戦争前からも顔を隠している女性を見かけたが、戦争が始まってからは街中で見かけるようになった。
Ⅲ⑤e		A4	撮影日：2023年9月2日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	手にケガを負いながら、PFA活動に参加する子ども。モハマッドが送ってくれる活動写真には、日を追うごとにケガをしている子どもの姿が散見されるようになった。
Ⅲ⑤f		A4	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	戦争の攻撃により、ケガをして病院に運び込まれる少年。医療スタッフの懸命な治療が日々続けられている。
Ⅲ⑤g		A4	撮影日：2023年10月18日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	突然の避難を強いられ、子どもも大人もみんな疲れきっていた。大人は両手に荷物を抱えて避難するので、長い距離を歩けないような小さな子どもであっても、自分の足で歩いて避難する。
Ⅲ⑤h		A4	撮影日：2024年2月8日 撮影場所：ラファ、ガザ地区 撮影者：Mohmmed Mansour	医薬品や医療物資の支援を行っているエル・ナジャール病院は、現在は跡形なく破壊されてしまった。それでもマルワン院長は、テントで野戦病院を続け、多くの負傷した患者さんの治療にあたっている。